

「大阪府郷土博物誌」1934年6月 大阪博物学会発行 P38-P51 より
※旧仮名遣や常用漢字以外の漢字は読みやすい表記に修正、適宜ふりがなを付記した

大阪府の鳥類に就いて

榎 本 佳 樹

緒 言

自分は過去十数年間に、極めて断片的ながら、大阪府に棲む鳥類の調査を行って、その一部分の研究を成し得たが、他県に住居して、機会を得た時だけに来て行った様な調査では、今直ちに詳細な発表を成し得るだけの材料を得ていないから自分が今後専心鳥類研究に従事し得る様になったのを幸いに、成し得るだけ早く、今迄調査残となっている事柄の、大部分を研究し終わってから、その結果を発表したいと思うて居る。然しながら、それは尚若干日月後のことであるから、ここに取り敢えず、大阪府鳥類の棲住状況一般に就いて少許の記述をなし、それと共に、大阪府鳥類目録資料を作ることにした。甚だ価値に乏しいものであるが、少しでも参考となるのであれば幸甚である。尚鳥類個種の形態や習性等に就いて記述し得るものがあるから、機会を得る毎に記稿する考えである。

第一 大阪府の地理と鳥類の関係

大阪府はその面積約 181 万 3 千余 km^2 で、内地府県中最小のものであるが、山地は東・南・北の三方、隣接府県との境界部にあつて、金剛山の 1100 余 m を最高とし、他は皆標高 1000 m 未満の低山地であり、又それ等から枝出する丘陵は大部分傾斜が緩やかで、農耕の行き届いて居るものが多い。而してこれらの他は、いわゆる大阪平野の大部分であるから、結局、住民地域は農作地に適する丘陵地と平地との合計面積は、総面積の割合に広く、その点においては、内地府県中少なくとも中等位を占め得るものと思われる。又人口密度においては、1 km^2 に対し 1960 人内外で、内地府県中第二位を占めるが、総人口 380 余万（現今それよりも多いであろう）中、260 余万の大阪市を始め、13 万余の堺市その他の小都市が多数の人口を収容しているから、郡部の人口密度は案外小さい。従つて畑地や水田等を主住あるいは準主住の場所とする鳥類が豊富でなければならぬはずであるが、種類は貧少で、棲住数も僅少

種類の外は多くない。これは後に述べる諸原因もあるが、畑地や水田の間に、草地や沼沢の様なもの少なく、鳥類の棲住に好適でないことも、主要原因の一つであろう。而して近年までは、淀川沿岸諸地方その他に溜り水のある葦原がかなり多か
って、鵜秧雞類や鴨類その他種々の鳥類が少なくない所もあったが、都市町村の膨
張、人口の増殖と共に、漸次開墾されて耕地となり、あるいは埋め立てられて住宅
や工場が建ち並び、平地における鳥類の棲住場所は、日々に削減縮小されるばかり
である。

山地は既記の如く低小で、森林も後に述べる如き状態であるから、これを我国で
有名な鳥類繁殖地となっている山地、例えば日光山地、富士山麓、戸隠山地等に比
べると、鳥類棲住地としての価値は甚だ貧弱なもので、高山鳥として名高いライチ
ョウはいないことはもちろん、深山鳥であるカッコウ、ツツドリ、ホトトギス等は
すこぶる稀少で、同ブッポウソウ・アカショウビン・ヤマセミ・ジュウイチ・コマ
ドリ等も、居ないことはなかろうと思うが、自分はまだ明確に棲住の場所を探知し
得ない。又山林を主住地とする啄木鳥・五十雀・四十雀等諸科の鳥類も至って貧少
である。

河川は淀川以外のものは何れも短小で、水量も少なく、現今コチドリやイカルチ
ドリの繁殖場となって残っているような、広大な河原を有するものもなければ、沿
岸に鵜秧雞類や鴨類等の棲住に適する葦原とか、沼沢地などを有するものもなく、
キジ・キジバト・ヤマシギ等の居りそうな竹藪や密林のある堤防を備えているもの
もなければ、河口部に鷓鴣・千鳥両科の諸鳥類や鷗科（鷗刺類を含む）諸鳥類の棲息
場となる砂州あるいは泥地等を造っているものもない。而して淀川だけは、水量豊
かで河幅も広く、沿岸に草地や葦原も少々残り、下流新淀川及び一二分流の河口部
に、現今なお少許ながら、砂泥両様の沖積地と、まだ建設物の多くない埋立地など
がある。従って上中流部には、僅少ではあるが、ヒバリ・タヒバリ・ハクセキレイ
・セッカ・オオヨシキリ・イソシギ・ササゴイ等が見られ、下流域や河口部
には、セッカ・オオヨシキリ等の外、アオサギ・コモモジロ（チュウダイサギ）・チュ
ウサギ・コサギ・ヨシゴイ等の鷺科鳥類、やや、多種の鴨類、鷗科千鳥科諸鳥類が
棲住する所もあり、殊に埋立地の一部にカルガモ・バン・カイツブリ・イソシギ・コ
チドリ等の繁殖地があり、埋立地の一部と泥沼地の一部にアジサシとコアジサシの
大群集地があつて、河口沖には上記鷗刺二種の外、ウミネコが多く、それについて
カモメもやや多数来り、時としてユリカモメも見られ、鴨科、殊に海鴨亜科鳥類中

スズガモが最も多く、キンクロハジロ・ホオジロガモ等も時々姿を現し、時としてそれ等の一二種が大群をなしていることもある。尚ミサゴやウミウなども時々訪れる外、稀来鳥類としてウミスズメ・ウトウ・アビ・オオハム・オオミズナギドリ等も籍を有する。然るに、これ等の鳥類棲住地ないし繁殖場となっている所も、ある箇所は運輸交通のため、人馬、車輛、船舶等の往来日々に繁劇となり、ある場所は魚釣、貝拾、海水浴等の人出ますます多く、河口部の砂州や泥沼地は将来の商工業地として埋立てられ、既成埋立地は遠からず内に、工場や人家が建ち並ぶ予定であるから、それ等につれて、河川とその付近を棲住地としている鳥類は、近々の内に、激減ないし地方的絶滅の悲運に陥ること明らかである。

河川の大部分が短小であることは既記の通りであって、山地は水源を涵養するだけの大樹林に乏しく。かつ瀬戸内海寡雨地帯の一部にある大阪府には、旱害予防のために設けられた、数千に達する大小の池があり、これ等にはカイツブリの繁殖場となっているものが多く、面積の広大なものには、時として五六十羽以上の群を見ることがある。又一部に葦や菰などのあるものには、コバン（バン）が繁殖し、諸種のサギ類が来るのがあり、御陵の周囲をなすものには、真鴨亜科鳥類その他の安全な隠れ場所となっているものも少なくなく、尚丘陵地帯にある比較的大きな池には鴨猟専用のため、一般人の狩猟を禁じてあるものもあって、これには多数の鴨が集まる。この池の多いことと、それにつれて遊水禽類が他の鳥類の少ない割合に多いことは、大阪府の一特徴と言い得る。

森林には、原始林や準原始林はほとんどなく、山地の一部に樹木やや鬱蒼とした所はないこともないが、何れもすこぶる狭小かつ点在的で、連続性を欠いているから、老木の大樹の森林を好む、大型啄木鳥やブッポウソウなどの棲住には都合悪く、大面積にわたる森林は、樹木矮小なものが多く、しかも樹木は殆ど松ばかりで、他の種類、殊に潤葉樹は甚だ乏しい。従って鳥類の食餌となる昆虫類や、果実類が得難く、営巣に適した樹木の空洞も少ないから、四十雀、五十雀、鶉、鶯、杜鵑、啄木鳥等緒科の鳥類は甚だ稀少である。次に、平地並びに丘陵地にある多数神社の中には、老樹大木の樹叢を有するものもあるが、殆ど全てが小さい孤立的のもので、これまた松ばかりのものが多いため、種々の鳥類が多数見られる様なものはない。ただ往々ゴイサギ・チュウサギ・コモモジロ（チュウダイサギ）・コサギ・ムクドリ・モズ等が巣を構えたり、ヒヨドリ・ツグミ・キジバト等が時々訪れる位のものがあり、又南河内郡の一部の如く、多数の御陵がある所では、それ等の周囲にあ

る水濠と共に、種々の鳥類が集まり、キジバト・モズ・カイツブリ・ヒヨドリ・ゴイサギなどが比較的多く、トビ・ハシボソガラス・ハシブトガラス・モズ・コカワラヒワ・ホオジロ等の繁殖場となっているものもある。

沿海地帯は淀川とその分流及び大和川等の河口部の一部に、現今尚鳥類の棲住に適したところが残っていることは既記の通りであるが、その他は幅の狭い帯状の砂浜が大部分で、鳥類の棲住に適する所がなく、海としては瀬戸内海の主部と殆ど同状態の大阪湾だけで、しかも海崖や小島嶼等もないから、海洋鳥類の棲住場所としては、一海峡を隔てた紀伊水道よりも遥かに劣等で、しかのみならず沿岸には、大小無数の都市町村が接続し、稠密な戸口、喧噪な工場の雑音、濛々たる煤煙等が絶海の無人島に棲む様な海洋鳥類の近接を峻拒して、只紀伊水道方面から間歇的にウミネコ・カモメ・ウミウ・ミサゴ等が徨うて来ると、又稀にアビ・オオハム・オジロワシ・ウミスズメその他二三種の海洋鳥類が訪れる位のものである。但し、沿岸から展望し難い中心部へ、頻々観察に行くことが出来たら、尚少数の種類を発見し得る場合があるかも知れない。

以上で地理的關係事項の概要は略述べ終わり、只気候のことだけが残っているが、これは鳥類の渡りに関することが主であるから、他章で述べる。

第二 鳥類棲住の多寡

大阪府に棲む鳥類で最も多いのはスズメで、これは郡部は勿論、市内にも所によっては可なり多く、その総数は府内に棲む他種鳥類全部の総数よりも多いであろうと想われる。ハシボソガラスも所によっては可なり沢山集まっているが、総数についてはスズメの百分の一にも達しないであろう。而してスズメ程普遍的でない。その他季節や場所によって多いと感じる鳥類はあるが、普遍的のものはなく、これに反して、府内に棲住はしていても、その数極めて稀少な種類はすこぶる多い。

他府県におけるものと比較して、棲住数の多い部に属するものとしては、カイツブリ・チュウサギ位のものであるが、少ない部に属する種類は甚だ多い。又他府県に棲んでいて、当府県に居ないものはすこぶる多種あるが、当府内だけにおいて、他府県に居ない様な、特産鳥類はいまだ発見されない。但し、他府県に居る某種と、当府内に棲む同一種とを厳密に比べ、極めた微細の相違点も逃がさぬ様に探し求め、それを拠点として新種を作る様なことをすれば、或いは多数の特産鳥類ができ

るかも知れないが、他府県に居るものに比べて、余り差異が甚だしいため、別種あるいは別亜種とせねば不便を感じる程のものは、今のところまず無い様である。又こんなことを極端にやれば際限のないことで、大阪府の鳥類が数千種となり、日本のそれが数万種にもなって、一見ただけでは余り差異の判らぬ様な多数の亜種が同一種に含まれていたり、或いは甲乙二標本を並べて、詳しく比較せねば判らぬ程度の微少の差異のため、甲と乙が別種であるという様なことは、却って繁雑となって不便であろう。

往昔は我が内地も、現今の満州や朝鮮等にも優る程多数の鳥が居たことは、古老の言によって推定できるが、今から四十余年前、自分が鳥類研究に興味を持ち始めた頃には、その多数居た鳥が、既に激減をして居たので、その後四十余年間にも、更に激減に激減を重ね、今尚減少を続けつつある。それで、自分が当地方の鳥類を調査し始めてからの十余年間に於いても、余り減少を感じない鳥よりも、減少の感ある鳥の方が遥かに多種類ある。而してこの数年間特に減少した鳥類は、イカルチドリ・クサシギ・キセキレイ・タヒバリ・オオジュリン・ヒバリ・ツグミ等で、殊にイカルチドリとクサシギは近年殆ど見ない。又ツバメの如きは、毎年当地を去る前、所によって数百羽以上の大群を見ることもあるが、翌年渡って来る数は頗る僅少で、昨年よりも本年の方が多いと感じた様なことはない。

第三 季節的移動(渡り)に就いて

鶺鴒科鳥類の大部分は、春秋両季共渡りの際立ち寄って暫く滞在し、秋の渡りに於いて、早い種類は七月中旬に出現し、晚いものは十月下旬に来るが、大部分は七月下旬から八月中旬迄の間に来る。而して、九月下旬迄に南方に去るものも多いが、年により一部分或いは過半は、十月十五日の開猟期まで居て、その後急に居なくなり、極めて僅かに残っているものも、十月末には去ってしまう。又春の渡りに於いて、大部分の種類は、四月中旬頃から五月上旬までの間に来て、早いものは数日間滞在して北方に去るが、六月末ないし七月上旬まで居るものもある。尚イソシギとコチドリの二種は当地方で繁殖するから、三月中旬頃出現し、前者は十二月上旬、後者は十月中旬頃まで居る。それで、新淀川河口から大和川河口に至る間へ行けば、少なくとも四月中旬頃から十月十五日までの半年間は、これ等両科鳥類の一二種ないし十数種は見る事ができる。但しこれは、今後土地の変化と共に変わ

ること勿論である。

ヒヨドリ・ムクドリ・コバン（バン）等は、一部分一年を通じて棲住し、一部分は渡りをする。鷺類の中で、ゴイサギとアオサギの大部分は終年棲住し、一部分だけ渡りをするが、チュウサギ・コモモジロ（チュウダイサギ）・アマサギ・ササゴイ・ヨシゴイ等は越冬しない。又コサギは越冬しないものと思うて居たら、本冬（昭和八-九年）確かに越冬したもの6羽を認めた。モズやトビの様に、或る期間には広く諸所で見られるが、他の期間には棲住地域が限定される漂鳥に属する種類は、当地方にかなり多い。以上の他は夏鳥と冬鳥が主なもので、両者共当地方へ来る種類は少くない。

第四 大阪府鳥類の将来と保護に就いて

鳥類が年々減少し、又その棲住場所が縮減されつつあることは、既記の通りであるが、大阪府では、棲住場所の縮減速度が、他の一般府県のそれに比して著しく速い様に思われる。従って鳥類の減少率も、級数的に大きくなって、このままで進行したら地方的絶滅を来たす種類が続々と出来、遂に現今でさえ多くない鳥類中、大部分のものが居なくなり、貴重な天然記念物の一部を失ってしまう時代が来るのも遠い将来であるまい。植物であれば一旦なくなっても、その位置へ同種のを植えるとか何とかして、再現させることが絶対不可能でないことが多いが、鳥類は棲住場所がなくなったため、地方的絶滅でもしてしまえばそれを原状通りにすることは殆ど望まれないのであるから、一層将来のことが憂へられる。

日本人の大部分は鳥類が有益な動物であることを知らないのは勿論、元来鳥類と云うものの存在さえも認めていないのである。それならば、鳥類に関して全く没交渉であるかと思うとそうではなく、鳥の巣を破棄したり雛を殺すことなど快とする者や、狩猟に多殺乱獲を誇る人等は至る所に多く、甚だしいのになると鳥類に関して殆ど無知識でありながら獲物の多いことと金力とにより、名狩猟家として尊敬されている様な輩もある。大体の趨勢が上述の通りであるから、山林の経営、農作地の開墾、荒廃地の整理、住宅地の新開、道路の築設、海湾の埋立、その他土地、森林、河川、池沼等に関する諸工作を行うに当たって、動植物の愛護や天然記念物の保存などが絶対に考慮されない結果、由緒ある名木や名高い巨樹が惜し気もなく切り倒されたり、著名の勝地さえも根本的に破壊されたりするのであるから、

鳥類の棲住地や繁殖場が殲滅^{せんめつ}される位^{くらい}のことは勿論である。

前述の如く、鳥類の将来に関しては実に寒心に堪^たえないものがあり、大阪府では特にそれが甚だしい様に思われるから、鳥類を愛好する人や、鳥類研究を事とする人等は、鳥類に関する知識共に愛護心の普及に努めることを第一の急務とせねばなるまい。而してそれがため、諸種の講演、印刷物の頒布、雑誌、新聞等への寄稿など何れも重要かつ有効な手段であろうと思う。就いては、一人を以って数十万人に当たる位の割合で、大衆の無関心、嘲罵^{ちやうば}、反駁^{はんぱく}等に打ち勝たねばならぬ大困難がある外、講演や印刷物の頒布には相等の費用を要し、新聞や雑誌は有益な寄稿でも、寄稿者の如何によっては受け入れない等、種々の難関があることも覚悟せねばならぬ。

鳥類の保護に関して行^{おこな}うべき施設に就いては、自分として腹案はあるが、頗^{すこぶ}る広汎にわたることで、到底短小の記述に網羅し得ないから、他稿に譲らねばならぬが、取り敢えず農産、林業、水産、土木業、狩猟等何れかの関係ある官民両界で指導監督階級にある人々に、鳥類の保護に関して全然無関心でないことを希望し、かつ場合によっては、博物学者や天然記念物保存に関係ある人等の意見を参考とする必要あることを進言する。

第五 鳥類目録資料

調査を完了してから目録を作りたいのであるが、それには尚若干の日月を要するので、取り敢えず今迄に調査し得たことによって目録の資料を作ってみたのが別表である。

棲住の確否、棲住数の多少、季節的区別等を日本文で表すと、簡明な表を作り得ないから英語の略語を用いた。

表には小部分不完全な点あるのは止むを得ないことで、即ち当地方に居ないことになっていて、実際は居るものがあったり、繁殖しないことになっている鳥が実際は繁殖して居る様なこともあると思われるが、これ等は将来の調査によって、漸次改訂を加える予定である。就いては学者諸賢の高教を切望すること勿論である。

〔一覽表説明〕 大阪府鳥類目録資料 一九三四年三月調

説 明

1. 棲住の確否 Cは棲住確実、Asは棲住確実と推定し得るもの、Pr1は出現或いは発見の公算あるもの、Pr2はPr1よりも公算の少ないもの、Pr3は極めて僅かに公算あるに過ぎないものを示す。
2. 棲住数の多寡 A3は最も多いもの、A2はそれに次ぎ、A1はA2に次いで多いもの、Mは中等程度のもの、R1は少ないもの、R2、R3、R4等は順次稀少の程度甚だしいことを示す。但しこれらは大阪府内における多寡を示し、又R4等のものでも、万一出現の際には多いこともないとは限らぬ。
3. 季節その他による区別 PRは常住鳥類、Sは夏鳥、Wは冬鳥、Wan 漂鳥、Pasは旅鳥、Stは迷鳥を示し、Bは府内で繁殖することを示す。
4. 本表には二百九十八種を挙げたが、中でCとAsとは大阪府鳥類と決定し得るもので、その数百九十二種（内C百五十五）、Pr1以下はまだ大阪府鳥類として取り扱うことはできないが、将来調査の結果棲住確実と認めれば、府産鳥類の中へ編入すべきもので、Pr1十八種、Pr2六十四種、Pr3二十二種ある。又PRは九種、S五十八種、W九十六種、Wan六十五種、Pas四十一種、St二十八種とカササギがあり、内大阪府鳥類として取り扱い得るものでは、PR八種、S四十二種、W五十四種、Wan五十五種、Pas三十三種ある。尚Bは六十種となっている。而してカササギは、現今天王寺公園に放し飼いされてあるが、まだ確実に移養されたものと云えないから何れの部類へも入れてない。
5. 番号は大阪府鳥類として取り扱い得るものだけに付けてある。但しカササギには付けてない。
6. 分類法は日本鳥学会発行の「日本鳥類目録」（1932年）により学名は大面積を要するので、やむを得ず省略した。

No.	鳥名	摘要	No.	鳥名	摘要
	燕雀目	鴉科		コホオアカ	Pr2 R3 W
1	ハシブトガラス	C A1 PR B	23	クロジ	As R2 W
2	ハシボソガラス	C A2 PR B	24	コジュリン	C R2 W
3	ミヤマガラス	As R2 Wan	25	オオジュリン	C R1 W
	コクマルガラス	Pr2 R3 St?		ツメナガホオジロ	Pr3 R3 W?
	*カササギ				雲雀科
	オナガ	Pr2 R3 Wan		オオヒバリ	Pr2 R2 W
	ホシガラス	Pr2 R3 Wan	26	ヒバリ	C M Wan B
4	カケス	C R1 Wan B			鶺鴒科
		椋鳥科	27	ビンズイ	C R1 W
5	ムクドリ	C A1 Wan B	28	タヒバリ	C M W
6	コムクドリ	C M Pas	29	ハクセキレイ	C R1 Wan
		雀科	30	セグロセキレイ	C R1 Wan B
7	シメ	C R2 W	31	キセキレイ	C R2 Wan B
8	イカル	C R2 W		マミジロツメナガセキレイ	Pr2 R3 W
	コイカル	Pr2 R3 W		イワミセキレイ	Pr3 R3 W
9	オオカワラヒワ	C R1 W			繡眼兒科
10	コカワラヒワ	C M Wan B	32	メジロ	C R1 Wan B
11	マヒワ	C R1 W			木走科
	ベニヒワ	Pr1 R2 W?	33	キバシリ	As R2 Wan
12	ベニマシコ	C R2 W			五十雀科
13	ウソ	C R1 W	34	ゴジュウカラ	C R1 Wan B
	オオマシコ	Pr1 R3 W			四十雀科
	イスカ	Pr1 R1 W	35	シジュウカラ	C R1 Wan B
14	アトリ	C M W		コガラ	Pr2 R3 Wan
15	スズメ	C A3 PR B	36	ヤマガラ	C R1 Wan B
16	ニュウナイスズメ	As R1 W	37	ヒガラ	C R1 Wan B
	シマアオジ	Pr1 R2 W?	38	エナガ	C R1 Wan B
17	ミヤマホオジロ	As R2 Pas	39	クイタダキ	C R1 Wan B?
	シベリアアオジ	Pr1 R2 W?			鶇科
18	アオジ	C R1 W		オオカラモズ	Pr2 R3 W?
19	ノジコ	C R1 S		チゴモズ	Pr1 R2 S
20	ホオジロ	C A1 Wan B	40	アカモズ	As R2 S?
21	ホオアカ	As R2 Wan	41	モズ	C M Wan B
22	カシラダカ	C M W			連雀科

No.	鳥名	摘要	No.	鳥名	摘要
42	キレンジャク	C R1 W	62	アカハラ	As R2 W
43	ヒレンジャク	C R2 W	63	ハチジョウツグミ	As R2 W
44	ヒヨドリ	C M Wan B	64	ツグミ	C M W
45	サンショウクイ	C R1 S B	65	イソヒヨドリ	C R2 Wan
46	サンコウチョウ	C R2 S B?	66	ノビタキ	C R1 S
47	コサメビタキ	C R1 S B	67	ルリビタキ	C R1 W
	エゾビタキ	Pr2 R2 S	68	ジョウビタキ	C R1 W
48	サメビタキ	As R2 S		ノゴマ	Pr2 R2 W?
49	ムギマキ	As R2 S		コマドリ	Pr2 R2 S
50	キビタキ	C R1 S B		コルリ	Pr2 R2 W
51	オオルリ	C R1 S B		イワヒバリ	Pr3 R3 St?
	エゾムシクイ	Pr2 R2 W		ヤマヒバリ	Pr3 R3 St?
	オオムシクイ	Pr2 R2 W?		カヤクグリ	Pr3 R3 Wan
	コムシクイ	Pr2 R2 W?		鶯科	鶯科
	メボソ	Pr1 R1 S	69	ミソサザイ	C R2 Wan B
52	センダイムシクイ	C R1 S B	70	カワガラス	C R2 PR B
53	ウグイス	C R1 Wan B			燕科
54	ヤブサメ	As R2 S	71	ツバメ	C M S B
	エゾセンニュウ	Pr2 R2 Pas?	72	コシアカツバメ	C R1 S B
	シマセンニュウ	Pr2 R2 W	73	イワツバメ	C R2 S
	ウチヤマセンニュウ	Pr2 R2 Wan			八色鳥科
	マキノセンニュウ	Pr2 R2 Pas?		ヤイロチョウ	Pr2 R3 St
55	オオヨシキリ	C A1 S B		雨燕目	雨燕科
	コヨシキリ	Pr2 R2 S	74	アマツバメ	C R1 S
56	セッカ	C M S B		ハリオアマツバメ	Pr2 R3 S
	鶯科	鶯科		怪鶯目	怪鶯科
57	トラツグミ	C R1 W	75	ヨタカ	C R1 S B
58	マミジロ	As R2 W?		戴勝目	戴勝科
59	クロツグミ	As R2 Wan		ヤツガシラ	Pr3 R4 St
60	シロハラ	C R1 W		佛法僧目	佛法僧科
61	マミチャジナイ	As R2 Pas		ブッポウソウ	Pr2 R3 S
				翡翠目	翡翠科
				ヤマセミ	Pr2 R2 Wan
			76	カワセミ	C M PR B

No.	鳥名	摘要	No.	鳥名	摘要
77	アカショウビン 啄木鳥目	As R2 S B? 啄木鳥科	99	ハチクマ	As R2 W
78	アオゲラ	C R1 Wan B	100	サシバ	C M S B 秃鷲科
79	カンサイオオアカゲラ ナミエオオアカゲラ	C R2 Wan B? Pr1 R3 Wan		ハゲワシ	Pr3 R4 St 鵟科
80	シコクコゲラ	C R1 Wan B	101	ミサゴ 鶴鷺目	C R1 Wan 鶴科
81	アリスイ 杜鵑目	As R3 W 杜鵑科		コウノトリ	Pr3 R4 S? 朱鷺科
82	カッコウ	C R2 S B?		ヘラサギ	Pr3 R4 S?
83	ツツドリ	C R2 S B		トキ	Pr3 R4 S? 鷲科
84	ホトトギス ジュウイチ 梟鷲目	C R1 S B Pr1 R3 S 梟鷲科	102	アオサギ ムラサキサギ	C M Wan B Pr2 R3 S?
85	オオコノハズク コノハズク トラフズク コミミズク	Pr1 R3 Wan As R3 Wan Pr1 R3 Wan Pr1 R3 Wan	103	コモモジロ	C R1 S
86	アオバズク	C R1 S B	104	チュウサギ	C M S B
87	キュウシュウフクロウ 鷲鷹目	C R1 Wan B? 鷲鷹科	105	コサギ	C R1 S(Wan)*B
88	ハヤブサ チゴハヤブサ	C R1 Wan Pr1 R3 Pas	106	クロサギ アカガシラサギ	C R3 Wan Pr2 R3 St?
89	コショウゲンボウ	C R2 S?	107	アマサギ	C R2 S B
90	ショウゲンボウ	C R3 Wan	108	ササゴイ	C M S B
91	イヌワシ	As R3 Wan	109	ゴイサギ ミゾゴイ	C A1 Wan B Pr2 R3 S
92	ノスリ	C R2 Wan	110	オオヨシゴイ	As R3 S
93	クマタカ チュウヒ ハイイロチュウヒ	As R3 Wan Pr2 R3 W Pr2 R3 W	111	ヨシゴイ サンカノゴイ 雁鴨目	C R1 S B Pr2 R4 S? 雁鴨科
94	オオタカ	As R3 Wan		オオハクチョウ ハクチョウ	Pr3 R4 W Pr3 R4 W
95	ハイタカ	C R2 Wan		マガン	Pr2 R3 W
96	ツミ	As R2 Wan		ヒシクイ	Pr1 R2 W
97	トビ	C M Wan B		コクガン	Pr2 R4 W
98	オジロワシ オオワシ	C R3 W Pr2 R4 W		アカツクシガモ ツクシガモ	Pr3 R3 W Pr3 R2 W
			112	マガモ	C M W

*一部越冬

No.	鳥名	摘要	No.	鳥名	摘要
113	カルガモ	C M Wan(s)B		阿比目	鶺鴒科
114	コガモ	C M W		カンムリカイツブリ	Pr3 R3 W
115	トモエガモ	C M W	132	アカエリカイツブリ	As R2 Wan
116	シマアジ	As R2 W		ミミカイツブリ	Pr2 R3 Wan
117	ヨシガモ	C R1 W	133	ハジロカイツブリ	C R2 Wan
118	ヒドリガモ	C R1 W	134	カイツブリ	C A PR B
119	オナガガモ	C R1 W		ハシジロアビ	阿比科
120	ハシビロガモ	C M W		オオハム	Pr2 R4 St
121	オシドリ	C R1 W	135	オオハム	As R3 W
	ホシハジロ	Pr1 R2 W	136	シロエリオオハム	C R3 W
122	キンクロハジロ	C R1 W	137	アビ	C R1 W
123	スズガモ	C M W		鳩目	鳩科
124	ホオジロガモ	C R1 W		カラスバト	Pr2 R3 St?
125	ビロードキンクロ	As R1 W	138	キジバト	C M Wan B
126	クロガモ	C R1 W	139	アオバト	C R2 S
	シノリガモ	Pr3 R3 W		鶺鴒目	鶺鴒科
	ミコアイサ	Pr3 R3 W		ハイイロヒレアシシギ	Pr2 R3 Pas
127	ウミアイサ	C M W	140	アカエリヒレアシシギ	As R1 W
	カワアイサ	Pr1 R2 W	141	クサシギ	C R3 W
	全蹼目	鶺鴒科	142	タカブシギ	As R3 Pas
128	カワウ	C R1 Wan	143	キアシシギ	C A Pas
129	ウミウ	C R1 Wan	144	イソシギ	C R1 Wan B
130	ヒメウ	C R1 Wan	145	ツルシギ	C R2 Pas
	管鼻目	海燕科	146	アカアシシギ	As R2 Pas
	クロコシジロ	Pr2 R3 St?	147	コアオアシシギ	C R3 Pas
	ウミツバメ		148	アオアシシギ	C R1 Pas
	ハイイロウミツバメ	Pr2 R3 St?	149	ソリハシシギ	C R1 Pas
		水風鳥科	150	オグロシギ	C R1 Pas
131	オオミズナギドリ	C R1 Wan	151	オオソリハシシギ	C M Pas
	オナガミズナギドリ	Pr3 R3 St?	152	ダイシャクシギ	C R1 Pas
	ハイイロミズナギドリ	Pr3 R3 St?	153	ハウロクシギ	C R1 Pas
	ハシボソミズナギドリ	Pr2 R3 St?	154	チュウシャクシギ	C M Pas
	アナドリ	Pr2 R2 W?		コシャクシギ	Pr2 R3 Pas
		信天翁科	155	オバシギ	C R2 Pas
	アホウドリ	Pr2 R4 St?	156	サルハマシギ	As R3 Pas
	クロアシアホウドリ	Pr3 R4 St?			

No.	鳥名	摘要	No.	鳥名	摘要
157	ハマシギ	C M Pas		クロアジサシ	Pr2 R3 St?
158	トウネン	C M Pas	178	セグロカモメ	C R2 Wan
	オジロトウネン	Pr2 R3 Pas	179	オオセグロカモメ	As R3 W?
	ウズラシギ	Pr2 R3 Pas	180	カモメ	C M Wan
	エリマキシギ	Pr2 R4 St?	181	ウミネコ	C A1 Wan
	キリアイ	Pr2 R3 St?		シロカモメ	Pr2 R4 W
	ヘラシギ	Pr3 R4 St?	182	ユリカモメ	C R1 W
159	ミユビシギ	C R1 Pas	183	ミツユビカモメ	As R3 W
160	ヤマシギ	C R2 Pas		海雀目	海雀科
161	アオシギ	As R3 Pas?		ケイマフリ	Pr2 R3 W
162	タシギ	C M Pas		マダラウミスズメ	Pr2 R3 W
163	オオジシギ	C R2 S	184	ウミスズメ	C R1 W
164	チュウジシギ	As R3 Pas		カンムリウミスズメ	Pr2 R3 W
	ハリオシギ	Pr2 R3 St?		シラヒゲウミスズメ	Pr2 R3 W
	コシギ	Pr2 R4 St?		コウミスズメ	Pr2 R3 W
165	タマシギ	C R2 S	185	ウトウ	As R2 W
		千鳥科		鶴目	^{ノガン} 鴝科
166	ダイゼン	C M Pas		ノガン	Pr3 R4 St?
167	ムナグロ	C A1 Pas			^{クイ} 秧 ^ナ 鷄科
168	オオメダイチドリ	C R2 Pas	186	クイナ	C R2 W
169	メダイチドリ	C M Pas	187	ヒメクイナ	C R2 S B
170	シロチドリ	C A1 Pas B		シマクイナ	Pr2 R3 S?
	ハシボソシロチドリ	Pr1 R3 Pas	188	ヒクイナ	C R2 S B
	ミナミコチドリ	Pr1 R3 Pas	189	コバン	C M S B
171	コチドリ	C M S B		ツルクイナ	Pr2 R3 S?
172	イカルチドリ	C R3 Wan?		オオバン	Pr1 R3 W
173	タゲリ	C R2 Pas		^{ジョン} ^{ケイ} 鶉 ^{キジ} 鷄目	雉科
174	ケリ	C R2 Pas	190	ウズラ	C R1 W
	ミヤコドリ	Pr2 R3 St		コウライキジ	Pr2 R3 St?
175	キョウジョシギ	C M Pas	191	キジ	C R2 PR B
	^{カモメ} 鷗目	鷗科	192	シコクヤマドリ	C R2 PR B
176	アジサシ	C M Pas		ウスアカヤマドリ	Pr2 R3 PR
	マミジロアジサシ	Pr2 R3 St?			
	セグロアジサシ	Pr2 R3 St?			
177	コアジサシ	C A1 S			